

第 6 学 年 音 楽 科 学 習 指 導 案

6 年 2 組 指 導 者 石 田 千 陽

題 材 音 楽 に 思 い を こ め て

1 本 題 材 で 子 ど も が 創 出 と 受 容、 転 移 を 行 う 各 教 科 等 の 本 質 (見 方 ・ 考 え 方)

音色の働きと自己のイメージや感情を関連付けること

2 本 題 材 に つ い て

本学級の子どもたちは、「われは海の子」の旋律や強弱に着目し、どこを一番盛り上げて歌うかについて考えてきた。このような子どもたちが、作曲者や作詞者が「ふるさと」に込めた思いを捉えることで、曲の特徴にふさわしい表現について追究していく。このことは、表現する楽しさを味わい、生活の中でより音楽に親しみをもつことにつながるであろう。

本題材の「ふるさと」は、作られた時代と現在の環境や生活様式は異なるが、作曲者や作詞者がこめた思いを音楽の構造や歌詞の内容から想像しやすい曲である。子どもたちは、強弱記号のとおり、強い・弱いといった声の大きさを「ふるさと」を表現していくであろう。その際、仲間と歌唱活動に取り組む中で、生き生きとした感じ・やわらかい感じといった「ふるさと」から感じた自己のイメージや感情を音色の働きと関連付けることを大切にしたい。そうすることで、発想の幅を広げ、曲の特徴にふさわしい表現で歌おうとすることができると考える。

そこで、以下のような支援を具体化し、本題材でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 歌詞の内容に込められた思いについて仲間と交流した後、どのように歌いたいかについて考えるよう促す。そうすることで、音色の働きと自己のイメージや感情を関連付けることができるようにする。【創】
- 考えた歌い方を試した際、その歌い方が「ふるさと」に合っているかどうかについて問う。そうすることで、音色の働きと自己のイメージや感情を関連付けて、曲の特徴にふさわしい表現で歌っていたことに気付くことができるようにする。【受】
- 2・3 番の歌い方を考える際、歌い方とその理由を問う。そうすることで、自覚的に音色の働きと自己のイメージや感情を関連付け、曲の特徴にふさわしい表現で歌おうとすることができるようになる。【転】

3 本 題 材 の 目 標

- 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解することで、曲の特徴にふさわしい表現で歌おうとすることができるようになる。
- 歌唱活動の楽しさを味わうことをとおして、生活の中でより音楽に親しみをもつことができるようになる。

4 本 題 材 に お け る 評 価 規 準

知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ○自然で無理のない、響きのある歌い方で歌っている。	○曲の特徴を捉え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	○主体的に音楽に関わり、協働して歌唱活動をする楽しさを味わっている。

5 指 導 計 画 (全 2 時 間)

第 1 次 「ふるさと」に込められた思いを表現する (2 時間) 【本時 2 / 2】

第 6 学 年 音 楽 科 学 習 指 導 計 画

6 年 2 組 指 導 者 石 田 千 陽

6M (2 時間) が本時

学 習 活 動	子 ど も の 意 識
<p>第 1 次 「ふるさと」の特徴にふさわしい表現について考える 6M (2 時間)</p> <p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること (知) ・自然で無理のない、響きのある歌い方 (技) ・どのように歌うか思いや意図をもつこと (思) ・曲の特徴を捉えること (思) ・協働して歌唱活動に取り組むこと (態) 	
<p>□「ふるさと」に込められた思いを交流して、ふさわしい表現について考える (3M)</p> <p>□より「ふるさと」の特徴にふさわしい表現を考えながら、歌唱活動に取り組む (3M)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日から、「ふるさと」を歌うのだね。歌詞を見ながら聴いてみよう。作詞者の故郷は田舎なのだろうね。一度歌ってみよう。Aくんが、昔を思い出しているのではないかとやっているよ。昔の楽しかったことを思い出すと、懐かしい気持ちになりそうだね。懐かしい気持ちをどうやって表現したらよいか。1 段目と比べて、4 段目は音も高くなっているから、故郷への思いがだんだんと強くなっていると思ったよ。Bさんは、4 段目をもっと明るい声で歌いたいと言っているね。故郷を懐かしんでいる感じが出せるように、だんだんと声を大きくしながら歌ってみてはどうか。よし、みんなで歌ってみよう。あれ、なんだか思っていた感じと違うな。どうすれば、故郷を懐かしんでいる感じに歌えるのかな。次の時間は、もっと「ふるさと」に合うように歌いたいな。 ・今日は前よりも「ふるさと」に合うように歌いたいな。3 段目からだんだんと音が高くなっているから、3 段目を盛り上げて歌ってみよう。Aくんが、3 段目に p があると言っているよ。小さな声で歌うのは、「ふるさと」に合っていない気がするね。Bさんは、“めぐりて”のところは、思いが強い部分だから生き生きと歌いたいのだって。元気な声ではなくて、柔らかい声が明るくなっていく感じにすると、「ふるさと」に合ってきたね。感じたことを歌声に生かしてみたら、「ふるさと」に合うように歌えたよ。2 番や 3 番にも合う歌い方がありそうだよ。2 番は故郷に帰れなくて寂しそうだね。3 番は、絶対に帰りたいという強い思いがあるから、2 番よりも明るい声で言葉をはっきりさせながら歌ってみよう。今までは、1 番も 2 番も同じように歌っていたけれど、込められた思いを想像して、歌い方を工夫するとよいのだね。